

多目的教室

～総合メディア基盤センターが提供する学生の主体的な学習活動促進を目指した新しい教室～

総合メディア基盤センター 森 祥寛

1 はじめに

2012年度のシステム更新時に合わせて、演習室を改修しました。この改修で、学生が能動的に学習活動に従事するような教育を効果的・効率的に実施しやすい教室を1室作ることにしました(以下、作成した教室を多目的教室と呼ぶ)。この多目的教室は、授業でアクティブラーニングを行うことを目的として作られた教室としては、金沢大学で最初の教室になります。2014年度に、金沢大学で採択された「大学教育再生加速プログラム」や「スーパーグローバル大学等事業」の事業の一環として金沢大学で作られている新教室にも参考にされています。

2 教室の構成と設備紹介

多目的教室では、学生が能動的に学習活動に従事しやすくなるような教室を作成しました。その基本設計として東京大学教養学部・理想の教育棟^[1]等の先行事例を参考にしており、基本的な教室の構成は、図1のように全面の壁と床にプロジェクターを配置しています。什器は台形型の移動机と、医者が外来診察時に使用している回転椅子を使用しています(図2)。プロジェクターの配置は図1の通りで、学生が教室のどこにいても提示された資料を見ることができるようになっています。なおプロジェクターには、3,600ルーメンの明るさで表示可能なものを導入し、窓からの明かりが入っていても、教室の電気がついていても表示され

た資料が明確に見られます。また、窓側の面以外の3面の壁全てをホワイトボードにして、自由に文字や図等を書いたり消したりできるようにしています(図3)。これによって学生は、授業進行や内容、形態(特にグループワークにおけるディスカッション等)に合わせて、自由にホワイトボードを利用することができます。この壁のホワイトボード化は、教卓の配置と合わせて、一般的な教室の使い方ができない空間構築を担っています。なお、便宜上「教卓」と表記していますが、多目的教室内の設備等が置かれている什器でしかありません。教員が授業で講義する場合は、図4のようなノートパソコンスタンドを使用してください。教室内システムの操作は、図5のタッチパネルで行います。デザインは、サポート要員がいなくても利用できる位に直観的なものにしてあります。実際の教室使用の説明も5分程度です。この多目的教室において、もっともユニークな設計が、天井から教室中央の床下投影用のプロジェクターを配置した点です。これによって、図1下のように床にも様々な資料を投影することができるようになり、学習空間に新しい広がりがありました。

参考文献：

- [1]「東京大学教養学部・理想の教育棟」
<http://www.komcee.c.u-tokyo.ac.jp/>



図1 教室の利用風景



図2 什器類(椅子は赤・白・黒の3種類)



図3 壁面のホワイトボード



図4 ノートパソコンスタンド

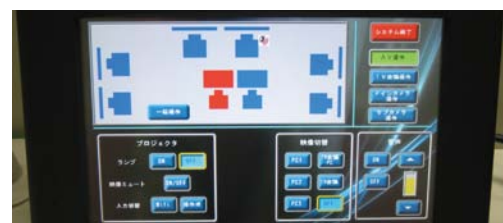


図5 システム操作パネル画面